

兵庫県保険医協会尼崎支部 第106回医療と福祉を考える会
医療と介護の勉強会 i-kai 共同開催

介護される人・介護する人が主人公の住宅改修

介護が必要なご本人や家族にとって、住宅改修は大きな問題です。何から手をつければよいのか、どこをどのように改修すればいいのか、介護保険の給付対象か悩んでいませんか？

今回の「医療と福祉を考える会」は、改修を手掛けている一級建築士・坂根さんから、介護者の状態にあわせた様々な改修事例をご紹介します。

改修にご関心のある皆様、ぜひお気軽にご参加ください。

日時 **1月23日(木) 16:00~17:00** **参加費無料**

会場 **尼崎市医師会館 会議室**
東難波町2-5-1 (尼崎総合医療センターバス停から西へ徒歩5分)

講師 **住宅改修ひとがしゅ 一級建築士事務所**
坂根 弘子 氏

ほんとうに必要とされることをしたくて住まいに関わる仕事をしています。
日々のくらしのなかで不便や不安を感じたり、これまでのように自宅での生活が円滑にできなくなったり、さまざまな問題を解決する改修工事にたずさわっています。
社名のひとがしゅは「住」という字の「人(ひと)」が「主(しゅ)」というところから名付けました。介護される人も介護する人にも楽になったと喜んでいただけるよう心がけています。【坂根 記】

※お問合せは 協会事務局 沖野・石本・林 TEL: 078-393-1805 まで

【お申し込み】FAX: 078-393-1802 尼崎支部 第106回医療と福祉を考える会 (1/23)

()市 医療機関・事業所等名()
TEL(- -)

参加者ご氏名	職種

《 お聞きになりたいこと・現在困っていることなどございましたら下記余白にご記入ください 》

兵庫県保険医協会 尼崎支部ニュース

446号

2024年12月15日付

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階 兵庫県保険医協会 尼崎支部
TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

- 2024年兵庫県知事選挙結果について -

ご支援ありがとうございました 保険医の声を県政に反映させるために 引き続き取り組もう

西山理事長らが呼びかけ人をつとめる「ウィーラブひょうごドクターズ おおさわ芳清を知事にする会」が2024年兵庫県知事選挙を受けて、下記の談話を発表しました

11月17日投開票で行われた兵庫県知事選挙で、憲法が輝く兵庫県政をつくる会・おおさわ芳清候補は、7万3千票余りを獲得しましたが、当選には及びませんでした。みなさまのご支援に心より感謝申し上げます。

今回の知事選挙で、おおさわ芳清候補は、「県政の混乱をただし、正常化する」「県民のいのちと暮らしを大切に、安心と信頼の県政をつくる」と訴えて、選挙戦をたたかいました。しかし、選挙戦では、自身の当選を目的としないと異例の立候補をした立花孝志氏により、斎藤元彦前知事による不適切な県政運営が元西播磨県民局長を自死に追いやったかどうかがもつぱら争点となった上、立花氏が認めるように事実にもとづかないデマに多くの有権者が踊らされる結果となりました。

本来であれば、斎藤前知事の不適切な県政運営をいかに正常化するかとともに、どういった県政をつくるのかという政策論争が行われるべきでした。

立花氏のように他の候補を当選させることを目的とした立候補が今後もまかり通れば、有権者の民意を正しく反映させることは難しくなります。もともと、立花氏は有権者を「犬や猫と一緒に。そういう人たちにも一票を託している制度が、今の民主主義のやり方。この状態で選挙に勝たなきゃいけない。だからバカに入れてもらう方法を考えるのが本当の賢い人」などと有権者を蔑んでおり、そうした点からも厳しく批判されるべきです。斎藤前知事は、こうした人物の支援を受けて当選したのであって、その説明責任を果たさなければなりません。また、斎藤前知事は、選挙戦の中で、自身が百条委員会で述べたことと異なる主張をしており、偽証罪に問われる可能性も示唆されております。再度召集される百条委員会で、真実を明らかにすることが引き続き求められていますし、今回の選挙結果を笠に着て、職員らに再びパワハラ等を行うことはあってはなりません。



11月10日を「医療デー」と位置づけ、阪神尼崎駅北口・大丸神戸店前・JR長田駅「鉄人」前で街頭宣伝を行った。写真は大丸神戸店前で行った時のもの。近畿の協会からの支援もあった。

一方で、稲村和美氏が及ばなかったのは、長らく続く日本共産党を除くオール与党体制に対する厳しい批判があったという点も間違いありません。一部に斎藤前知事の再選を阻止するために、おおさわ芳清候補は立候補を取り下げ、憲法県政の会は稲村和美氏を支援するべきだとの意見もありました。しかし、先に立候補を表明したおおさわ候補に対してそうした提案はありませんでしたし、稲村氏の(2面につづく)

(1面からのつづき)

これまでの政治家としての実績や今回の選挙の公約をみても、公有地を民間売却して財政状況を改善するものの、改善した財政状況を活かして、住民のための施策を充実させる観点が全くないという、斎藤前知事や清水貴之氏と何ら変わらない政策を掲げていました。だからこそ、自民党の県議の約半数が稲村氏を支援していました。

また、県議会で最多の議席を持つ自民党は、今回斎藤前知事、稲村氏、清水氏と3つの陣営に分かれて選挙戦をたたかいました。県議団として極めて無責任な態度を言わざるを得ません。

私たちは、引き続きおおさわ芳清候補にいただいたみなさんの声を県政に反映させるために、奮闘してまいります。以上

第104回評議員会で増田・阿部両評議員が発言

協会が11月17日に開催した第104回評議員会で、尼崎支部から増田理恵・阿部勝也両評議員が発言をした。発言の要旨を掲載する。

【発言】 知事選挙に立候補している大澤芳清医師は、尼崎医療生協病院の院長で、保険医協会の理事、尼崎支部の幹事です。ドクターとして医療現場のことをよくご存知で、弱い物の立場に立って、公平無私の姿勢を貫ける人物です。大澤先生に期待しています。

当院の患者さんをお願いして入院していただき、患者さんからの話を聞くと、患者さんに寄り添う医療をしていることがよくわかります。強いリーダーシップを発揮し、しかも弱い立場に立っていただける。ぜひこういう方に知事になっていただきたいと思います。これからも応援していきたいと思っています。



増田理恵評議員

【発言】 前半期の尼崎支部活動を報告致します。

第53回支部総会は会員・市民ら40人が参加し「仏教と医療から考える“生きづらさ”の支え方」と題し、僧侶の露の団姫(つゆのまるこ)さんの落語と会員・むこのそう心の診療所院長の岡本真吾先生の講演、その後、お二人の対談と会場からの活発な意見交換が行われ、盛会裏に終了しました。

医療と福祉を考える会は、市内の医療・看護・介護分野の方々が一堂に会し、開催回数は100回を超えています。6月には、フランスベッドから介護ベッドを持ち込み、使い方や選び方を再認識しました。今後も、医療介護福祉の皆さんを対象に腰痛予防・住宅改修・摂食嚥下障害など幅広いテーマで開催していきます。

医科歯科連携研究会は、兵庫医大・口腔外科・岸本裕充教授に、薬剤関連顎骨壊死(MRONJ)の最新2023ポジションペーパーをもとに講演いただき、今後の診療方針の転換に大きく影響することが示されました。尼崎支部幹事会では医師・歯科医師・薬剤師が参加し、幅広いテーマで支部活動の方向性を議論しています。今回のテーマは医療界全体にとって有意義であったと考えています。

会員拡大では、役員と会員からの声かけや紹介状など、毎回の幹事会で入会を議題として上げ、重要課題としています。8月の「600回記念幹事会」では若手の先生方を招待し、新たに入会していただきました。さらに新入会の3人の先生に、『ラジオ関西番組・聴く医療』で在宅医療に関するテーマで連続出演していただくことが決まり、若いパワーによる支部活動の活性化を期待しています。

また尼崎市内の諸団体と協力して地域医療を守る運動を続けています。

一つは尼崎社会保障推進協議会で、協会尼崎支部長の綿谷茂樹先生が会長を務めています。来週20日には、すべての被保険者への資格確認書の発行、子ども医療費無料化などを求め尼崎市と懇談を行います。

もう一つは、尼崎アスベストの会です。JR尼崎駅近くの株式会社クボタの工場周辺の住民に中皮腫

(3面へつづく)

(2面からのつづき)

などのアスベスト被害が多発していることが報道された、いわゆる「クボタショック」です。その後19年が経過しましたが、年々死亡者が増加しています。先月も『健康・法律相談会』を開催しました。今後も活動を継続し、国と尼崎市の責任で継続した検診が受けられる仕組みづくりと、クボタに対して被害者全員への責任ある対応を求めています。

第33回日常診療経験交流会

医療と介護など多職種と交流を深める



発表を行った大前隆仁先生

協会は10月27日、「かがやく未来はくるのか」をテーマに第33回日常診療経験交流会を協会会議室とオンライン併用で開催、会場に54人、オンラインで31人の計85人が参加した。

分科会では尼崎支部から、大前隆仁先生(おおまえホームケアクリニック)が「在宅医療でメサドンを導入することで疼痛コントロールを改善できた5例」を発表した。

野村医院の日高貴洋理学療法士が「医療保険と介護保険のリハビリテーション～通所リハビリテーションを開設してからの患者様の推移について～」を発表した。

尼崎アスベストの会「健康・法律相談会」

アスベスト暴露への不安を抱え4人が相談に

協会尼崎支部が加盟する「アスベスト被害からいのちと健康を守る尼崎の会(尼崎アスベストの会)」は10月19日、潮江診療所で、『アスベスト被害 健康・法律相談会』を開催した。

2005年に(株)クボタ旧神崎工場(JR尼崎駅)周辺の住民にまで中皮腫や肺がんなどのアスベスト被害が多発していることが報道された、いわゆる「クボタショック」。19年が経過し、周辺住民の中皮腫や肺がんの犠牲者は毎年増加している。今回の相談会は、埋もれた被害者の掘り起こしと救済のために開催されたもので、ときおり激しい雨が降る中、4人の市民が相談に来られた。

相談者はいずれも70～80歳代。アスベストに暴露したのは数十年前のことだが、全員が「胸膜プラークの所見がある」とかかりつけ医に指摘され、「咳や息切れが止まらず、不安な日々を送っている」など被害の深刻さが伺えた。船越正信先生(尼崎アスベストの会会長、潮江診療所所長)が持参された胸部CT画像を見ながら説明したり、弁護士が賠償手続きについて相談に応じるなど丁寧に対応した。

アスベストによる中皮腫等の発症の潜伏期間は、20年から50年といわれており、被害者はまだまだ埋もれていると推測される。とりわけ、クボタ旧神崎工場周辺に居住していた市民はアスベスト関連疾患の大きなリスクを負っている。

「アスベスト尼崎の会」では「毎年、1回以上のアスベスト検診を受診しよう」と市民への啓発活動を強めるとともに、国と尼崎市の責任で継続した検診が受けられる仕組みづくりを求めるとともに、(株)クボタが被害者全員への責任ある対応をすることを求めている。



相談者が弁護士から賠償手続きなどのアドバイスを受けた

アスベストによる健康被害を心配される患者様がおられましたら、下記までご相談ください。
アスベスト被害からいのちと健康を守る尼崎の会 Tel 06-6489-2600